

開会挨拶

共愛学園前橋国際大学
学長 大森 昭生

本日は共愛学園前橋国際大学 デジタル共創研究センターの新しい研究プロジェクトに関する記者発表会を開催したところ、皆様本当にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、来賓としてお越しいただいているたくさんの方にも心より御礼申し上げます。

ご承知のように、本学では2026年度からデジタル共創学部（仮称・設置申請中）を設置すべく、今、文部科学省に申請をし、その準備を進めているところでございます。この新しい学部は「未来の社会は、私たちが創る」というキャッチフレーズで、「デジタル技術を活用しながら他者と共に Well-Being な社会を創造できる人材」の育成をめざしているところです。

新しい学部を設置する前年度にあたる今年度、デジタル共創研究センターを新しい学部の学びを支える研究組織として立ち上げました。センター長には國領二郎先生に就任いただいております。このセンターの最初のチャレンジとして、この研究プロジェクトの採択を受けたところでございます。研究内容の社会的意義の大きさ、独自性あるいは社会先導性はもちろんのこと、地方大学の在り方がいま大きな全国的なトピックとなっておりますが、地方大学の教育はもとより、研究においてもポテンシャルがあるということ、あるいは、地方から世界へという動きのモデルになるという意義ということもこの研究プロジェクトにはあるのではないかと考えております。

祝辞

前橋デザインコミッション

代表理事 宇留賀 敬一様

このたび、共愛学園前橋国際大学・デジタル共創研究センターが、経済産業省による国際標準開発に関する事業に採択されたとのこと、心よりお祝い申し上げます。発表会に所用のため参加できず、誠に申し訳なく存じます。

アグリゲーション技術は、群馬県が有する豊富な再生可能エネルギー資源を最大限に活用するための要であり、今後のエネルギー戦略において極めて重要な位置を占めるものと確信しております。その技術の基盤となる国際標準が、ここ前橋で生み出されることは、前橋にとって大きな財産であり、未来に向けた貴重な一歩となるものと期待しております。

前橋デザインコミッションでは、にぎわいと魅力あふれる民主導のまちづくりを推進しており、エネルギーは単なるインフラではなく、再生可能エネルギーや最新技術と結びつくことで、まちの魅力そのものへと昇華していくと考えております。今回、前橋から国際標準が生まれ、それが民間の力で地域に実装されていくという未来像が、より現実味を帯びてまいりました。

あらためまして、このたびのご採択、誠におめでとうございます。皆様のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

祝辞

インテック専務執行役員
情報流通プラットフォームサービス事業本部長
飯沼 正満様

本日、ここ群馬・前橋の地から世界に向けて、「次世代エネルギーシステムのセキュリティ世界標準の開発を始動」を発表されること、誠に喜ばしく思います。

研究開発の推進に携わる皆さまの不断の努力と情熱に敬意を表するとともに、弊社も次世代エネルギーシステムの一端を担うべく尽力したいと存じます。この度の新しいスタートを心からお祝い申し上げます。

祝辞

国立マレーシア科学大学(USM)
サイバーセキュリティリサーチセンター所長
教授 セルバクマール マニカム博士

It is an honor to witness the launch of the ERAB Cybersecurity Research Initiative at Maebashi International University. In an era where energy resource aggregation is key to sustainable progress, ensuring the resilience of ERAB's digital infrastructure against cyber threats is more critical than ever. This initiative represents a bold step forward in advancing cybersecurity research, in collaboration with the Cybersecurity Research Centre (CYRES) at Universiti Sains Malaysia, which has established the ERAB and CPSF Cybersecurity Testbed. We believe this partnership will help shape a future where smart energy systems are secure, trustworthy, while ensuring they are built using open standards. Together, we are building a safer digital world.

簡約

前橋国際大学における ERAB サイバーセキュリティ研究イニシアチブの発足に立ち会えることを光栄に思います。分散エネルギーリソース(DER)のアグリゲーション(集約)が持続可能な発展の鍵となる時代において、ERAB のデジタルインフラのサイバー脅威に対するレジリエンス(回復力)を確保することは、これまで以上に重要です。このイニシアチブは、ERAB と CPSF のサイバーセキュリティテストベッドを設立したマレーシア科学大学サイバーセキュリティ研究センター (CYRES) との連携により、サイバーセキュリティ研究の推進に向けた大胆な一歩となります。このパートナーシップは、スマートエネルギーシステムが安全で信頼性が高く、オープンスタンダードに基づいて構築される未来を築く上で役立つと確信しています。私たちは共に、より安全なデジタル世界を築いていきます。

祝辞

日本通信株式会社代表取締役社長兼 CEO
めぶくグラウンド株式会社取締役
福田 尚久様

ひとことお祝いを申し上げたいと思います。

前橋で生まれ育って、この地で新たな取り組み、しかも国際標準を作っていく取り組みをこの前橋の地から取り組んでいくという試みに対して、関係者の方々に大変敬意を表しております。

私自身あるいは國領先生が、職業人としてデジタルに関わっている一番上の世代（一番古くからやっている世代）になると思います。インターネットがきて約30年が経ちました。便利になっている面は多くの方が体験しているとおりですが、一方で、犯罪などのインターネットの怖い面があるのも現実的な問題です。10年、20年経ったときに、インターネットが無かった方がよかったのではないかという声があってもおかしくない状況にあると思っています。これを乗り越えるためには、セキュリティをしっかりとやらないといけません、前橋で、めぶくグラウンド株式会社で取り組んでいる、あるいは全国で取り組んでいる安全・安心にインターネットを使えるということをしかりと定着させることを行わないと、これ以上、先に進めないという状況にきています。そのインターネットの課題、そして、電力需要が上がる一方でエネルギーや電力が足りないという状況で、その辺りをしっかりと現実的に解決しようとする、アグリゲーションをしっかりと行って電力を有効に、しっかりと無駄なく使っていくということが絶対に必要になります。その際、そこに対して、家庭まで制御信号が入ってくるのは怖いことですが、怖いからこそしっかりとした基準やセキュリティはこうあるべきということを作って、世界中でサポートしていくことが求められています。

このような、大きな取り組みが前橋からスタートされるということは感慨深いです。

本日は誠におめでとうございます。

本学の取り組みに対するコメント

日本通信株式会社代表取締役社長兼 CEO

めぶくグラウンド株式会社取締役

福田 尚久様

地方大学、しかも文系主体の大学において、研究センターを設置して世界標準をめざしていくということは、とてつもないハードルを乗り越えたと思っております。

研究センターは大学全体がサポートを行わないと難しく、教育以外の部分である研究に対する事務方のサポートが難しい状況です。そのような中で、意義のあることを行っていくという姿勢、そしてその背景として、現在、デジタル系の学部が新設ブームですが、比較的プログラミングやデザイン等を行う学びが多い中で、デジタル共創学部（仮称・設置申請中）では、社会が求めている本質のことについて正面から取り組んでいくということを学生が一緒になって体験しながら一緒に学べる、研究ができる、議論ができるということは最高の新学部になっていくと思います。

表面的な部分でのデジタルを教えるのではなく、より本質的なことを取り組もうとされている、そういったパッションがあり、輪が広がっているということで、皆様の努力の成果でここまで来ていると思います。我々もサポートできるところはサポートしながら、プロジェクトが成功し、デジタル共創学部が認可されて、前橋に本質的に取り組む新しい学部が生まれることは地域にとって素晴らしいことだと思います。

デジタル共創研究センターについて

共愛学園前橋国際大学
デジタル共創研究センター長
國領 二郎

新たにデジタル共創学部（仮称・設置申請中）を設置すべく、申請活動を進めているということをご案内させていただきましたが、それに先立ち 2025 年 4 月に研究組織である共愛学園前橋国際大学デジタル共創研究センターを立ち上げさせていただき、センター長に就任いたしました。

デジタル共創研究センターは多様なプレイヤー（企業様や非営利団体、市民の皆様、学生等）が一緒に力を合わせながら地域課題を解決していく、また地域発で世界を変えていくというようなものを作っていきたいということで立ち上げました。

群馬県で、前橋で、共愛学園ならではの研究センターを作っていきたいと思っており、共愛学園は元々共愛・共助を大切にしてくれており、前橋は「めぶく」というキーワードで市民の皆様の力を開花させる、トップダウンではなくボトムアップで世の中を変えていくという考え方で、それにふさわしいようなプロジェクトを推進していきたいと思っております。

デジタルということが大きなテーマとなっておりますが、デジタルは道具に過ぎないので、新しい技術を活用しながら、めざすところを実現し、活動を通して地域課題を解決していきたい、学生がワクワクしながら、学んだことを活用して世の中を変えていけるような、そのようなところに関わっているということの実感がもてるような環境を作っていきたいと思っています。

なお、現在デジタル共創研究センターでは、既に 3 つ程、研究プロジェクトが確定・内定しております。

1 つ目は地理空間情報についてということでパートナーはエアロトヨタ様、2 つ目は新世代電力システムセキュリティについてとなりパートナーは経済産業省様、3 つ目は日立製作所様の研究戦略アドバイザリーについてとなっております。

その中でも、本日は新世代電力システムセキュリティについて詳しく説明いたします。